



『We ♥ 鏡中』

令和8年 5月 24日

☆≧ 「雑草という草はない」(昭和天皇陛下の言葉)

私はこの「雑草という草はない」という言葉を機会あるごとに思い出そうにしています。

「雑草という草はない」という言葉は、昭和天皇陛下が、皇居の草を切った侍従に、「なぜ庭を刈ったのかね」と尋ねたとき、「雑草が生い茂ってまいりましたので、一部お刈りいたしました。」という侍従の言葉に対して、「雑草ということはない。」「どんな植物でも、みな名前があって、それぞれ自分の好きな場所で生を営んでいる。人間の一方的な考え方でこれを雑草と決めつけてしまうのはいけない、注意するように」と侍従を諫めたというエピソードです。私は20歳になる前に知りました。その時から、草だけでなく人も同様との思いでいます。ですが、すぐに傲慢になる自分を反省します。

元々は、戦前に植物学者の牧野富太郎が作家の山本周五郎から取材を受けたときに、「雑草」という言葉を口にした山本周五郎を、牧野博士がたしなめた言葉とされています。牧野博士は、1948(昭和23)年、昭和天皇陛下に植物学のご進講をしているので、その時にそのような話があったのかもしれませんが。どちらが先かはさておいて、昭和天皇陛下、牧野富太郎博士の「雑草という草はない」という考え方を私は大切にしたいと思っています。

また、戦後各地を御巡幸された昭和天皇陛下が唐津市の虹の松原で、陛下が海の方に歩いていかれた道に草がたくさん生えていたのを、地元の案内者が申し訳ない気持ちで「雑草が生えていて申し訳ございません」とお詫びした時に、陛下がそれに対して「雑草という草はないのだよ」とおっしゃったエピソードもあるそうです。

☆≧ 「体育大会大成功」

さて、なぜ「雑草という草はない」の話を書いたのかというと、5/23(土)の体育大会準備、5/24(日)の体育大会で、体育大会を成功させるために多くの生徒が自分の「役割を果たし」てくれました。進行係、招集係、放送係、出発係、用具係、決勝係、本部記録係…係の名前を挙げればきりがありませんし、体育大会リーダーも生活体育委員も保健給食委員も、そして何より実行委員も、本当に多くの生徒たちが体育大会を成功させるために、自分の「役割を果たし」ていたと思います。写真は体育大会終了後の、団席テントを片付けている様子です。黙々と作業をしてくれる生徒たちが、本校の財産だと再確認したところです。「雑草という草はない」というのであれば「生徒たち」ではなく、全員の名前を記さないといけないのですが、人数が多く、それも現実的でないので、「生徒たち」で表記します。



コロナ禍でエッセンシャルワーカー、「生活必須職従事者」とも呼ばれる、医療や福祉、第一次産業や行政、物流や小売業など、いかなる状況下でも必要とされる社会生活を支える職の人々にスポットライトが当たりました。その方々の個々のお名前は表には出てきません。それでも、その方々は精一杯、自分の役割を果たされています。本校の生徒には、先ずその存在に気づくことが出来る人になってほしいと思います。「We Love ♥ 鏡中」の先にある「We Love ♥ ○○」の○○という社会(集団)を支える人に気づいてほしいです。そして、将来は「We Love ♥ ○○」な、○○の社会(集団)を支える人に育ってほしいと思います。

☆≧ 「勝ち」にこだわりながらも、「価値」を見い出す

体育大会直前に、あるクラスの学級通信に書いてあった言葉です。開会式で紹介しましたが、生徒たちが体育大会を通して、何か「価値」を見出したのであれば最高です。同じものを見ても、同じ経験をして、人によって見出す価値は様々です。真剣に、そして一生懸命にすることの素晴らしさ、励ましあうことの大切さ、仲間の大事さ、努力×団結の力など、何を学んだのだろうと思います。学校行事を通して、集団の中でしか学べないことを学んでほしいと思います。